

パーソナルメディアの活用と育児支援ネットワークの構築

天笠 邦一^{†‡}

kz@sfc.keio.ac.jp

[†]慶應義塾大学 政策・メディア研究科, [‡]藤沢市 政策研究員

本文要旨:

本論では、未就学児の子どもを持つ保護者のメディア利用と、彼らが持つ育児支援ネットワークの構造との関係性を理解する事を目標とする。松田（2008）によれば、子育てを支援するネットワークのネットワーク的特性（規模や密度・異質性など）により、育児不安や育児に対する満足度は変動する。一般に、ネットワーク規模が大きいほど、育児不安が少なく、満足度は高い。すなわち、育児不安を軽減し、満足度を向上させる為には、保護者が育児に関するネットワークを築きやすい環境を整える事が寛容である。このような環境を作り出す上でのパーソナルメディアの役割を理解する為、神奈川県藤沢市において未就学児の保護者を対象とした質問紙調査を行った。その分析の結果、パーソナルメディアには、支援ネットワークの補完機能・構築/維持の支援機能があることが明らかになった。

キーワード:

パーソナルメディア、育児支援、サポートネットワーク、社会的ネットワーク論

The Roles for Personal Media in Child-rearing Support Network

AMAGASA, Kunikazu^{†‡}

kz@sfc.keio.ac.jp

[†]Graduate School of Media and Governance, Keio University [‡]Researcher, Fujisawa City Hall

Abstract

This paper will illustrate what roles personal media play in construction of child-care support network. Matsuda (2008) points there are strong links between the level of anxiety/satisfaction in child-rear and the social network properties (Scale, density, heterogeneity et.al.) of their child-rearing support network. On the other hand, personal networks are influenced by their personal media usage. Thus, in order to construct comfortable environment for child-rearing, it is important to understand relations between their support networks and usage of personal media. The questionnaire survey we ran in Fujisawa shows that personal media usage leads to construction of affectional support networks.

Keyword

Personal Media, Child Support, Support Network, Social Network Analysis.

1. はじめに

現代社会における、喫緊の課題であり、かつ、あらゆる要素を勘案した総合的対策が求められる少子化対策において、個人の育児を支える人々を1つのネットワークとして捉え、そのサポートネットワークの構造の理解を図った松田（2008）の研究は、意義深い。育児を行う上での負担感の軽減は、少子化問題を考える上で1つの大きなテーマであるが、それを単独の要素と結びつけず、その人を取り囲む環境の総体である人的ネットワークと結びつけ議論することには、少子化問題の統合的理解の意味において大きな意味がある。

この松田の研究において、不満があるとすれば、急激に進んだ携帯電話やPCなどのパーソナルメディアの利用が、個人が構築する育児支援ネットワークに与える影響について言及していない点であろう。松田（2000）が指摘したように、携帯電話をはじめとする各種メディアの普及・利用は、個人がパーソナル・ネットワークを構築する上での指向性やその結果構築されるネットワークの変化と相互に影響を与えあっている。育児においても、このメディア利用とパーソナル・ネットワークとの関係性には、同様の相互関係があるものと考えられる。本論ではその具体的関係性を筆者が行った質問紙調査を元に議論したい。

2. 先行研究：育児を支えるサポートネットワークとメディア利用の関連性

育児期の社会的関係性の構築における、パーソナルメディアの役割については、既にいくつもの議論がなされている。例えば、宮木（2004）は、質問紙調査によりママ友の間でのメディア利用の実態を明らかにしている。この中で宮木は「現代の通信メディアはママ友の時間的・物理的状況にかなったコミュニケーションツール」であり、高い利用率を誇る一方で、母親の年齢により利用状況にはばらつきがあり、ママ友に対する意識差ともあいまって、人間関係の二極化を生む要因となっていると指摘している。また、宮田（2005）は、主にインターネット上の（育児）セルフヘルプグループの存在に着目し、そのコミュニティへの参加が、互酬性や信頼性の構築に寄与している点を議論している。これらの研究は、育児とメディア利用の関連性について議論を行った先駆的な研究ではあるが、育児活動の総合的な理解の中での、メディア利用を把握するという意味においては、対象とする関係性やフィールドの点で限定的である面は否めない。本論では、より総合的な意味での育児支援ネットワークにおけるパーソナルメディアの役割について明らかにしていきたい。

3. 概念的枠組

本論では、育児活動を行う個人の周りに存在し各種メディアによって構築・維持されている社会的ネットワークから受ける各種の育児サポートにより、育児負担の軽減が図られていると考える。この相互関係の詳細な理解のためには、ネットワークと育児活動それぞれに対して、それを表現する何らかの指標が必要となる。そこでネットワークの形質に対しては、その規模（人数）・密度（互いに知り合いである率）・異質性（どのような属性の人がどれくらい含まれるか）を取得し、分析を行うことにする。これは、社会的ネットワークの分析で一般的に用いられている指標を援用したものである。また、育児活動の評価指標に関しては、先の松田（2008）が用いていた牧野・中西の育児不安尺度（1985）の簡易版及び子どもとの生活の満足度を5件法で表現したものを育児満足度の指標として用いたい。満足度に関する指標としては、育児の分野別にその満足感を測定するため、育児サ

ポートの種類を分類し、それぞれのサポートに対する満足度も聞くことにした。育児サポートの種類は、育児のサポートを道具的サポートと情緒的サポートに分けた関井ら(1991)・久保(2001)の枠組みを援用し、これに子育て現場のフィールドワーク(天笠, 2008)の結果、重要だと考えられた情動的サポートを加えた3分類をその分類として考える。道具的サポートに関しては、久保が用いていた「こどもが病気時」「大きな用事の時」「急な残業・用事の時」のサポートの3項目に「日常的ケアにおけるサポート」を加え、4項目で構成されることとした。また、情緒的サポートに関しては、久保の3項目「心配事の相談」「不安や愚痴を言う」「大変さの理解」に対するサポートをそのまま利用した。情動的サポートについては、「子育て情報を得るためのサポート」の1項目を用意した。このそれぞれの項目について、満足度をそれぞれ5段階で表現することにした。

4. リサーチクエスチョン

上の概念枠組を援用し、本論では、以下の2点を主な論点とする I. 個人が持つ育児支援ネットワークの形質が、育児に対する不安度や全体的満足感、各分野に対する満足感与える影響。 II. パーソナルメディアの利用が個人が構築する育児支援ネットワークの形質に与える影響。リサーチクエスチョンの構造については、文末の図1に示す通りである。

5. 実施調査

調査方法

神奈川県藤沢市内の異なる5地域にある保育園・幼稚園1園ずつ(1地域だけ保育園のみ)に協力を依頼し、園に子どもを通わせる保護者を対象にした質問紙調査を実施した。配付・回収は園を通じて行い、配付数は1091部、回収率は69.3%(756部)であった。うち基本的属性の記入がなされ、更に回答方法に間違いのなかった687部が有効回答として分析の対象となった。調査の詳細及び回答者の概要は、文末の表1に示すとおりである。

分析結果

育児不安・満足度と各分野へのサポートへの満足度を目的変数に、ネットワークの形質・パートナーの育児支援状況および回答者の基本的属性を独立変数に、全独立変数を投入する重回帰分析を行った。なお、独立変数でカテゴリ変数だったものはダミー変数化し分析を行っている。また、男性が育児の中心実行者である家庭と、ひとり親家庭に関しては、異なる回答傾向を持つため分析対象から除外した。結果は、以下の表2に示す通りである。

これを見ると、概して、母親の(男性を除外したためほぼ母親と言える)の基本的属性と比べて、母親が持つネットワークの形質と父親の育児への参加状況が、育児不安や各種の満足度に有意で大きな影響を与えていることがわかる。特に父親の育児への参加状況(配偶者支援点)はすべての項目について有意で前向きな結果を示しており、母親が育児から感じる不安感や満足度は、父親の育児への参加状況に強く影響を受けていることがわかる。ネットワークについては、父親の参加状況程ではないが、強い影響を持つことも見て取れる。同居親族と、不安度の軽減と道具的サポートへの満足度の向上が有意に表れ、中心的支援者の数が増えると満足度と情緒的サポートの向上が有意に表れる。また周縁的支援者も含めた総支援者数が増えると、不安度の減少や多くの分野の満足度の向上が有意に表れるが、特に情緒的サポートと情動的サポートへの満足度の向上が顕著となる。

密度や異質性などのさらに詳細なネットワークの形質が育児活動に与える影響を調べるため、中心支援者数が3名以上・同居親族無の家庭を対象に、これらの指標を加えて全変数投入方式で重回帰分析を行ったのが表3である。これを見ると、父親と中心支援者との繋がりが密であり、支援ネットワーク中で友人が占める比率が高いことが重要である。前者の条件では、情緒的なサポートへの満足度が有意に上昇する。一方後者では、中心支援者の友人比率が高いと、道具的なサポートへの満足度が有意に低下し、周辺の支援者の友人比率が高いと、情緒的サポートへの満足度が有意に上昇する。

以上の結果より、単純に言えば支援ネットワークの規模が大きいほど育児への不満は少なく満足度は高くなることがわかった。では、育児ネットワークの規模が大きいのはどんな生活を送る人々なのだろうか。目的変数に中心・総支援者数を置き、独立変数として、メディアの利用・母親の就業・父親の育児参加・子どもの人数/年齢・ライフスタイル・公共サービスの利用経験に関する各変数を投入し、増減法にて変数を選択する重回帰分析を行った。結果は表4のとおりである。父親の育児参加の程度や、自治会・趣味の活動などの社会的活動の活発度、各地域子育て拠点など人的拠点となる公共施設の利用などが、支援ネットワークの規模に影響を有意に与えている一方で、メディアの利用も有意な影響を与えている。頻繁な電話通話や携帯メールは、周辺のネットワークの拡大やその維持に寄与していると考えられる。一方でパソコンでのネットの頻繁な利用は、中心・周辺支援者の数を有意に減少させる。同じパーソナルメディアの利用でも、メディアの種類によって、支援ネットワークに与える影響は様々であり、その役割は異なるものと考えられる。

考察・まとめ

分析結果から、育児に必要な様々なサポートはそれぞれ異なる主体から提供されている傾向があることが明らかになってきた。道具的サポートの厚さは育児不安度と結びつく傾向があり、主に配偶者や同居親族など非常に近い関係性の人々から提供されている。情緒的サポートは、主に育児満足度と結びつく傾向があり、中心的支援者と周辺の支援者から提供されている。しかし、親族という内部者だけでなく親しい友人のような外部者の存在も重要になる。情動的サポートについては、ネットワークの規模と社会的な接触の多さが重要であり、比較的浅い付き合いの中からも有意義なサポートが得られていることが予想される。各種メディアは、PCでのネットなどバーチャルな志向性の高いものは、これらの支援ネットワークの代替物として、電話通話や携帯メールなど、現実的な志向性が強いものに関しては、ネットワークの構築・維持ツールとして利用されていると考えられる。

6. 今後に向けて

今回の調査は、神奈川県藤沢市という限定された地域で行われたものであり、そのことも勘案する必要がある。さらに厳密な議論を行うためには、地域特性の異なる地域において、追加の調査を行い、比較検討していく必要があるだろう。また、この結論を実際の子育て支援施策に生かすためには、さらに探索的な調査を行う必要があると考えられる。今後このような定量的な調査に加えて、定性的な調査を合わせて行い、双方の知見を組み合わせ、議論を行うことが必要不可欠となるのではないだろうか。

【謝辞】

本調査を実施に当たり、多大なご協力を頂いた各保育園・幼稚園・藤沢市関係各位の皆様に深く感謝いたします。

【参考文献】

- [1] 内閣府（2009）「少子化社会白書」 佐伯印刷
- [2] 松田茂樹（2008）「何が育児を支えているのか——中庸なネットワークの強さ」 勁草書房
- [3] 松田美佐（2000）「若者の友人関係と携帯電話利用」 『社会情報学研究』 No. 4: pp. 111-122.
- [4] 宮木 由貴子（2004）「ママ友の友人関係と通信メディアとの役割」 第一生命ライフデザイン研究本部 Life Design Report
- [5] 宮田加久子（2005）「きずなをつなぐメディア—ネット時代の社会関係資本」 NTT 出版
- [6] 牧野カツコ・中西雪夫（1985）「乳幼児を持つ母親の育児不安」 『家庭教育研究所紀要』 No. 6: pp11-24.
- [7] 関井智子他（1991）「働く女性の性別役割分業観と育児援助ネットワーク」 『家族社会学研究』 No. 3: pp. 72-84.
- [8] 久保桂子（2001）「働く母親の個人ネットワークからの子育て支援」 『日本家政学会誌』 Vol. 52 No. 2: pp. 135-145.
- [9] 天笠邦一（2009）「藤沢市における地域子育て拠点の現状と可能性」 『藤沢政策研究』 Vol. 6: pp. 117-136

【図表】

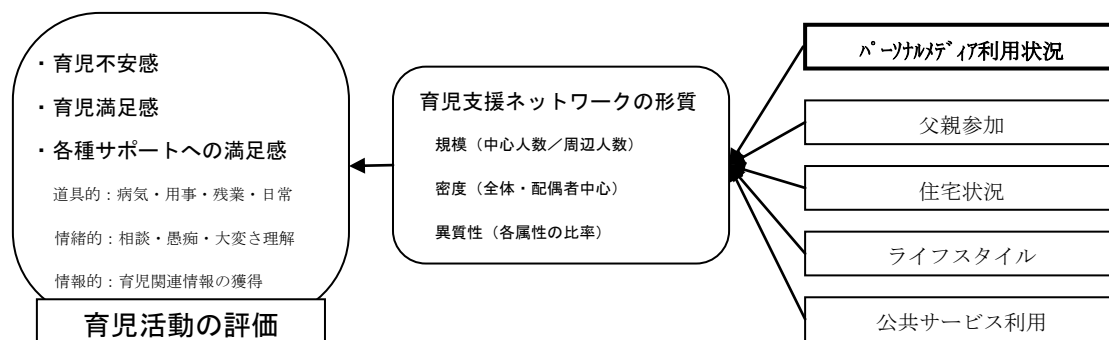


図1. リサーチクエスションにおける概念枠組

表1. 実施調査概要

調査対象	藤沢市内の保育園・幼稚園に子どもを通わせる世帯の中心の子育て従事者
標本抽出法	藤沢市内の地区特性の異なる5地区から、地区の人口比に合うように幼・保1園ずつ選定。 ※ 1地区のみ、保育園のみ。協力園：保育園…5園、幼稚園4園
調査方法	質問紙法、協力園を通して質問紙を配布・回収。
調査時期	2008年12月～2009年2月
回収状況	配付：1091部、回収：756部（回収率69.3%）、分析に利用した回答：687部
データ概要	回答者男女比：男性17名(2.2%)/女性737名(97.5%)、回答者平均年齢：35.4歳 幼保の別：保育園277名(36.6%)/幼稚園479名(63.4%)、有職者率：49.4%(フルタイム25.3%) 子どもの平均数：1.94人、末子平均月齢：44.2ヶ月、同居親族有：14.6%
備考	松田(2008)を参考に子育てにおいて最も頼りになる人4名を「中心支援者」として挙げて貰った。密度や配偶者と支援ネットワークの結合度に関しては中心支援者データを下に算出。配偶者支援点は、上記の育児各分野でどの程度頼りになるかを点数化し加算した。

表 2. 支援ネットワークが育児活動にもたらす影響の重回帰分析 (モデル 1: 父子母子家庭除く/回答者女性のみ)

目的変数	育児活動全般		道具的サポート				情緒的サポート			情報サポート
	育児不安度	育児満足度	子どもが病気	大きな用事時	急残業用事	日常的ケア	心配事相談	不満愚痴	大変さ理解	育児情報
ネットワークの形質(独立変数)										
同居親族がいる	-0.92 *	0.16	0.47 **	0.37 **	0.36 *	0.04	0.11	0.13	0.15	0.09
中心支援者人数	-0.12	0.10 *	0.11 *	0.07	0.06	0.10 *	0.14 **	0.16 **	0.16 **	0.07
支援者総数	-0.05 **	0.01 #	0.01 #	0.01	0.01 #	0.01 *	0.02 **	0.02 **	0.02 **	0.02 **
配偶者の特徴(独立変数)										
配偶者支援点	-0.15 **	0.03 **	0.03 **	0.04 **	0.04 **	0.02 *	0.02 *	0.02 **	0.03 **	0.02 *
配偶者協力満足度	-0.13	0.10 *	0.07	0.03	0.04	0.10 *	0.06	0.06	0.07 #	0.06
基本的属性(独立変数)										
中心育児従事者年齢	-0.06 #	-0.01	0.00	-0.01	-0.01	-0.02	-0.02 *	-0.01	-0.01	0.00
就業:フルタイム(ダミー)	-0.53 #	0.04	-0.24 *	0.00	-0.19	0.02	-0.10	-0.04	0.03	0.04
就業:パートタイム(ダミー)	-0.56	0.17	-0.09	0.04	0.02	0.09	0.04	0.10	0.18 #	0.18 #
就業:自営/自由/農業(ダミー)	0.23	-0.02	0.07	0.08	-0.23	-0.12	-0.10	-0.03	-0.35	0.06
自宅:集合住宅(ダミー)	-0.61 #	0.16	0.18	0.16	0.08	0.05	0.05	0.08	0.08	0.20 *
自宅:大規模団地(ダミー)	0.22	-0.05	-0.04	0.10	-0.12	-0.10	-0.09	-0.07	-0.05	0.03
自宅の所有:賃貸(ダミー)	0.23	-0.25 *	-0.20	-0.25 *	-0.17	-0.32 **	-0.13	-0.14	-0.12	-0.21 *
世帯年収:200万円未満	-2.04	0.29	0.39	0.37	0.21	0.39	0.16	0.23	0.36	0.51
世帯年収:1000万円以上	-0.89 *	0.17	0.13	0.04	-0.11	-0.10	-0.02	-0.03	-0.05	0.01
修正済決定係数	0.153	0.128	0.096	0.106	0.094	0.108	0.120	0.137	0.149	0.085

表 3. 支援ネットワークが育児活動にもたらす影響の重回帰分析 (モデル 2: 同居親族無・中心支援者 3 名以上)

目的変数	育児活動全般		道具的サポート				情緒的サポート			情報サポート
	育児不安度	育児満足度	子どもが病気	大きな用事時	急残業用事	日常的ケア	心配事相談	不満愚痴	大変さ理解	育児情報
ネットワークの形質(独立変数)										
中心支援者人数	-0.16	0.15 *	0.11	0.07	0.07	0.13 *	0.14 *	0.13 *	0.14 *	0.12 *
支援者総数	-0.03	0.00	0.01	0.01	0.01	0.02 *	0.01 #	0.01	0.01	0.02 **
重み無し密度	0.10	0.03	0.22	0.18	0.05	0.22 (#)	0.04	-0.03	0.05	0.11
配偶者とネットワークの結合度	-0.09	0.46 **	0.28	0.17	0.28	0.00	0.24	0.36 *	0.31 *	0.03
中心支援者女性比率	0.13	-0.02	-0.14	0.02	-0.29	0.15	0.08	0.06	0.29	0.15
中心支援者友人比率	0.53	0.01	-0.45 #	-0.59 **	-0.45 #	-0.20	-0.24	-0.12	-0.09	0.05
中心支援者同僚/近隣比率	1.29	0.01	-0.50	-0.40	-0.28	0.35	-0.24	-0.02	-0.11	-0.14
中心支援者公比率	1.12	-0.63	-0.99	-0.43	0.05	-0.06	-0.23	-0.20	0.14	0.14
支援者友人比率	-0.62	0.32	0.03	0.15	-0.06	-0.05	0.48 #	0.61 *	0.65 *	0.04
支援者同僚/近隣比率	-2.58 *	0.29	-0.10	-0.03	-0.03	-0.25	0.35	0.33	0.34	0.09
支援者公比率	-0.64	-0.20	-0.33	-0.66	-0.31	-0.54	0.56	0.65	0.30	-0.15
配偶者の特徴(独立変数)										
配偶者支援点	-0.14 **	0.03 **	0.02 *	0.02 *	0.04 **	0.01	0.01	0.02 #	0.02 *	0.01
配偶者協力満足度	-0.15	0.09 *	0.10 #	0.06	0.06	0.11 *	0.05	0.04	0.04	0.06
基本的属性(独立変数)										
中心育児従事者年齢	-0.08 *	0.00	0.01	-0.01	0.00	-0.01	-0.02 *	-0.02 #	-0.01	0.01
就業:フルタイム(ダミー)	-0.50	0.26 *	-0.14	0.01	-0.25 #	0.06	-0.11	-0.05	0.09	0.09
就業:パートタイム(ダミー)	-0.61 #	0.12	-0.10	0.06	-0.02	0.08	0.00	0.07	0.18	0.22 *
就業:自営/自由/農業(ダミー)	-0.11	0.14	-0.17	-0.14	-0.57 #	-0.16	-0.26	-0.18	-0.46 #	0.13
自宅:集合住宅(ダミー)	-0.73 *	0.09	0.16	0.12	0.04	-0.01	-0.01	0.02	-0.01	0.18 #
自宅:大規模団地(ダミー)	-0.07	-0.01	0.08	0.18	-0.06	-0.17	-0.09	-0.04	0.01	0.07
自宅の所有:賃貸(ダミー)	0.25	-0.22 *	-0.19	-0.20 (#)	-0.15	-0.29 *	-0.10	-0.11	-0.06	-0.19 #
世帯年収:200万円未満	-0.74	-0.14	0.14	0.55	-0.11	0.37	0.59	0.64	0.77	0.58
世帯年収:1000万円以上	-0.28	0.01	0.06	-0.08	-0.23	-0.21	-0.05	-0.03	-0.09	-0.02
Adj-R2	0.105	0.133	0.086	0.068	0.079	0.077	0.064	0.079	0.095	0.060

表 4. 支援ネットワークの規模に影響を与える要素に関する重回帰分析 (増減法)

独立変数	メディア利用				父親参加				ライフスタイル				公共サービス利用					
	電話通話:1日複数回(D)	携帯メール:1日複数回(D)	PCネット:1日回数以上(D)	プログラマー(D)	父親育児支援点	父親年齢	父親通勤:1時間以上(D)	父親行事:1回以上(D)	住居形態:社宅	世帯年収:1千万円以上(D)	自治会活動:参加あり(D)	子と外出:週1回以下(D)	熱中する趣味・活動有(D)	ファミサポ:利用経験有(D)	子育て広場:利用経験有(D)	支援センター:利用経験有(D)	公園:日常的に利用	行政窓口:利用経験有(D)
中心支援者数(目的変数) Adj-R2=0.13	偏回帰係数																	
			-0.36	0.38	0.02	-0.03	0.19	0.26	-0.66	-0.27	0.30		0.20	-0.28		0.22	0.15	
	P値																	
			0.032	0.009	0.045	0.000	0.045	0.004	0.007	0.065	0.001		0.025	0.063		0.016	0.154	
	判定																	
			*	**	*	**	*	**	**	#	**		*	#	*	*		*
周辺支援者数(目的変数) Adj-R2=0.13	偏回帰係数																	
	2.61	1.28	-2.25		0.24	-0.24	1.18			-2.63		-1.00	1.87		1.03		1.61	
	P値																	
	0.008	0.082	0.068		0.000	0.000	0.087			0.017		0.147	0.006		0.136		0.015	
	判定																	
	**	#	#		**	**	#			*			**				*	

** : 1%有意, * : 5%有意, # : 10%有意, (#) : 有意確率 11%未満